

大迫たばこ栽培の建築遺産

－葉たばこ乾燥倉－

うち かわ め そと かわ め おう しょく しゅ
内川目・外川目地区には、黄色種という葉た
ばこのじん こう か ねつ かん そう
人工加熱乾燥に使用された施設が多数現
存しており、かん そう ぐら
乾燥倉と呼ばれています。

黄色種とは、米国由来の特殊な乾燥法を必要
とする品種で、大迫ではせん ばい きよく し どう
専売局の指導のもと昭
和 5 年にし さく
試作が行われ、昭和 8 年には本格的
なこう さく
耕作へと移行し、各所で乾燥倉が建設されま
した。

当時はし こう
嗜好の変化によってなん ぶ は
南部葉が低迷して
いたため、せん ばい きよく ひん しゅ てん かん も さく
専売局は品種転換を模索し、黄色種
を導入しました。

黄色種は屋内の自然乾燥では製品化できず、
乾燥倉を使用して 70 ～ 80 時間にも及ぶ複雑
な工程を経る乾燥作業が必要でした。しかし、
品質が優れず、昭和 38 年には作付けが中止さ
れ、乾燥倉も使用されなくなりました。